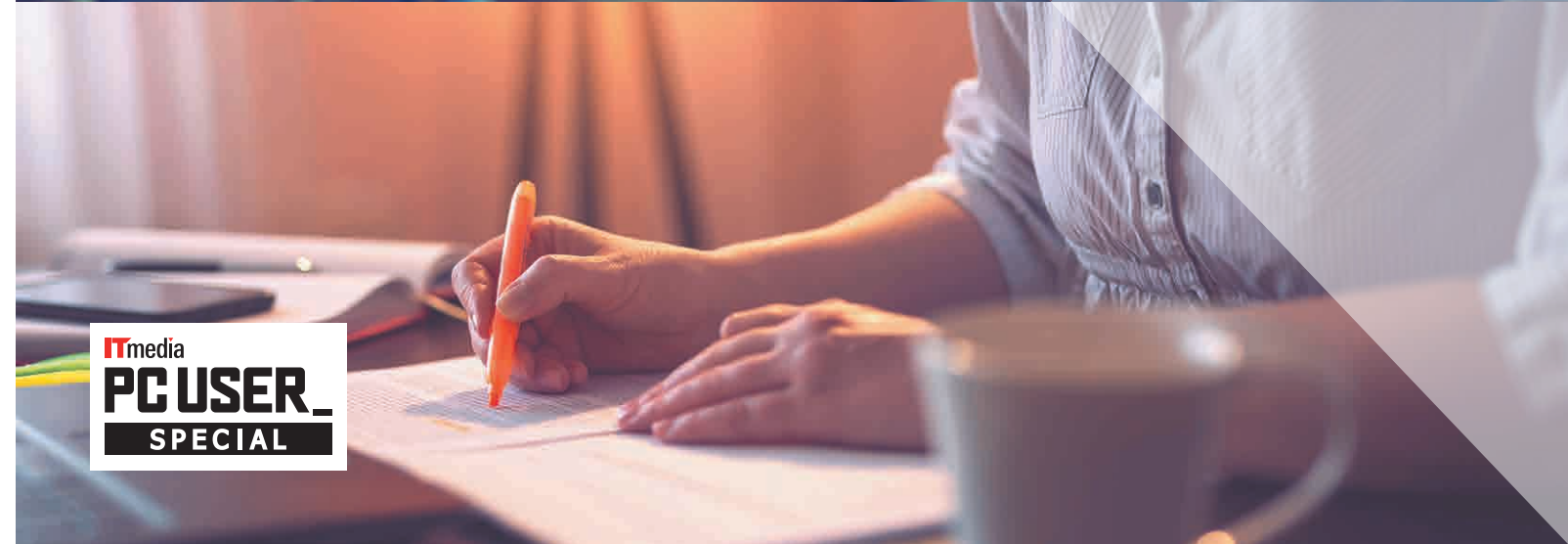


Windows 10移行で セキュリティを高め、 「働き方」を変える



掲載製品に関するお問い合わせはHPカスタマー・インフォメーションセンターへ

0120-436-555 フリーダイヤルがご利用いただけない場合 03-5749-8291
月曜 - 金曜 9:00-19:00 土曜 10:00-17:00(日曜、祝日、5月1日、年末年始など、日本HP指定の休業日を除く)
<http://www.hp.com/jp/>

Intel、インテル、Intel ロゴ、Ultrabook、Celeron、Celeron Inside、Core Inside、Intel Atom、Intel Atom Inside、Intel Core、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Intel vPro、Itanium、Itanium Inside、Pentium、Pentium Inside、vPro Inside、Xeon、Xeon Phi、Xeon Inside、Intel Optane は、アメリカ合衆国および/またはその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標です。記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。記載事項は2019年4月現在のものです。本カタログに記載された内容は、予告なく変更されることがあります。

OP015003-01



Windows 10への移行で運用はどう変わる？

2020年1月にWindows 7のサポートが終了するのに伴い、Windows 10への移行が迫られている。
なぜ移行が不可欠なのか？ スムーズな移行と運用のためのヒントとは？
その理由について、詳しくひも解いていこう。

株式会社日本HP
サービス・ソリューション
事業本部
クライアント
ソリューション本部
ソリューションビジネス部長
福井 孝文氏



なぜWindows 10への移行が迫られているのか？

2020年1月14日、Windows 7がサポート終了を迎える。サポート期限まで残り1年を切ったが、そもそも終了期限が過ぎてからもWindows 7を使用し続けていると、どのような問題が発生するのだろうか。

Windows 7では現在、不具合や脆弱性の修正が行われる「更新プログラム」が提供されているが、この更新が、先述の期限をもって提供されなくなる。そうするとPCが“丸裸”同然になってしまうので、マルウェアの侵入や不正アクセスなどのサイバー攻撃を受けやすくなる。

サイバー攻撃を受けると、自社の個人情報を含む重要な情報が外部に流出してしまう懸念はもちろん、社内システムを乗っ取られて取引先の情報漏えいやPCを攻撃される可能性も大いにある。会社の信頼に悪影響を及ぼしかねないのだ。

そうしたリスクを抑えるには、OSをWindows 7から最新のWindows 10に移行することが不可欠と言える。

Windows 10には、定期的に機能や品質を強化する仕組みが組み込まれている。サイバー攻撃は日々巧妙化、悪質化しているが、そうしたトレンドに対応しながら、有効なセキュリティ機能をどんどん追加して強靱さを高めているのである。

このようなメリットを踏まえ、日本でも大企業を中心にWindows 10への移行が進んでいるものの、中堅・中小企業の対応はやや遅れているようだ。

「2019年初めの時点でWindows 10に移行した日本の企業は半数を超えていると言われる一方、そのほとんどが大企業なのも事実です」と語るのは、日本HP サービス・ソリューション事業本部長の福井孝文氏だ。

「Windows 7のサポート終了まで1年足らずの段階で、まだ移行の準備に取り掛かっていないのは、かなり危険な状況です。移行のための課題は多く、場合によっては運用開始までに1年以上かかるかもしれませ

ん。もしWindows 7のサポート終了までに移行が完了しないと、その間、会社のPCがサイバー攻撃の危険にさらされてしまうのです」と福井氏は語る。

アップデートによってネットワークがパンクする可能性も

中堅・中小企業のWindows 10への移行が進んでいない理由として挙げられるのが、自社で保有するPCは多くても数十台から数百台であるため、「いざとなったら、サポート終了の直前に買い換えればいい」と考えてしまいがちだからである。

だが、十分に準備をせずWindows 10搭載のPCに入れ替えると、思わぬトラブルが発生して業務に支障を来すこともあるという。

その原因は、Windows 10から実施されることになった定期的な機能更新だ。

先ほども述べたようにWindows 10はテクノロジーやセキュリティの進化に対応する機能拡張のため、年に2回、「機能更新プログラム」と呼ばれるOSの更新サービスを提供している。

「機能更新プログラムは大型のアップデートのため、データサイズはPC1台・1回あたり3GB以上と大きくなります。100台なら300GB以上という大きな負

荷が社内ネットワークにかかり、メールが送れなくなる、クラウドシステムへのアクセスが遅くなるといった業務の混乱を招くケースも見られます」(福井氏)

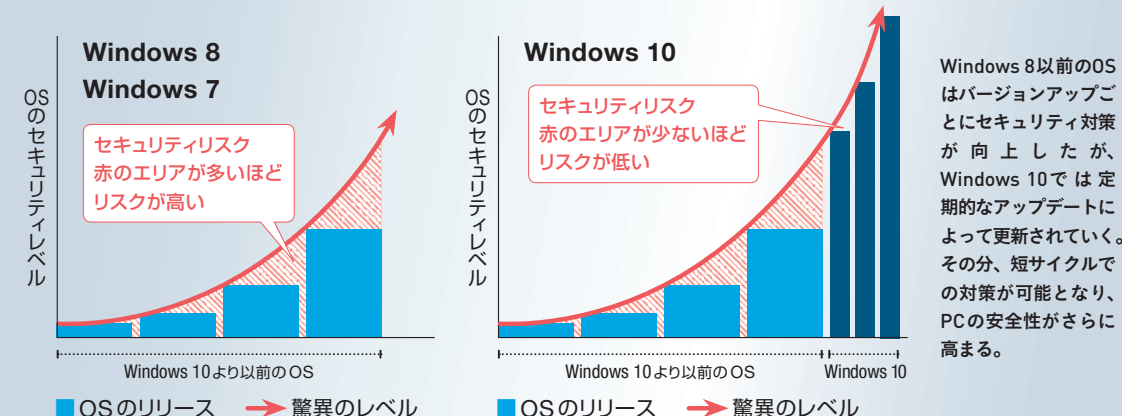
Windows 10では、機能更新プログラムのほかに、毎月1回、「品質更新プログラム」というアップデートも行われる。そのため、社内に何台PCがあって、更新のたびにどれだけネットワークに負荷がかかるのかをあらかじめ確認し、十分なネットワーク帯域幅を確保しておかないと、場合によっては毎月のように業務に混乱が生じる可能性もあるのだ。

今まで使っていたアプリや機器が突然動かなくなることも

また、これらの更新を行うことによって、業務用アプリやプリンターなどの周辺機器が突然動かなくなるといったトラブルが発生する可能性もある。これは、Windows 10の定期的な更新プログラムによって、それまで使ってきたアプリや、周辺機器・内蔵デバイスなどを動かすファームウェア、ドライバーが更新後のOSに対応しなくなってしまうことが原因である。

「Windows 7では、アプリケーションやドライバーのバージョンはつねに固定された状態に保たれますが、Windows 10では対応するバージョンが定期的に更

Windows 10では短サイクルで脅威への対策を行う



2タイプの更新プログラムで継続的に新機能を追加

毎月更新

品質更新プログラム Quality Updates

品質の向上とセキュリティの修正を行うプログラム

リリースごとに過去の更新プログラムを全て含む
(累積パッチ)

年2回更新

機能更新プログラム Feature Updates

Windows 10の機能拡張を行う更新プログラム

3月と9月の
年2回更新

機能更新プログラムは
従来のOSの
バージョンアップ相当

Windows 10では、機能更新プログラム(従来のOSアップグレードに相当)が年2回、品質更新プログラムが毎月実施される。定期的な更新によって機能拡張や品質の向上、セキュリティ対策の修正などを行う。

新されていきます。それに合わせて更新のたびにアプリやドライバーをアップデートしていかないと、業務に使えなくなり、仕事が止まってしまうのです(福井氏)

これらのトラブルを回避するためには、アプリケーションやドライバーの更新にどれだけの手間が想定されるのかといったことを周到に調べ上げ、業務を止めずに「更新の波」を乗り越える仕組みをつくらなければならない。つまり、ただPCを入れ替えればいいという話ではなく、移行後の運用管理も見据えた計画づくりが不可欠なのである。

「Windows 7のサポート終了まで1年を切った今、体制づくりのために残されている時間はわずか。すぐにでも動き出すことが求められています」(福井氏)

インテル® vPro™ テクノロジーを使って夜間帯にOS更新を済ませる

とはいえ、体制づくりといっても具体的にどのような対応をすべきなのか。ここで、Windows 10移行後の運用管理をスムーズにする日本HPとインテルが提供するさまざまなソリューション・機能を紹介していこう。

まず先述した、機能更新プログラムのような大型のアップデートに対応するための帯域幅。1回のアップデートに必要な帯域幅を想定して、十分な帯域幅を確保しておくことが不可欠であることは言うまでもないが、それでも更新のたびにネットワークにかなりの負荷がかかって、業務に何らかの支障が出ることは避

けられないだろう。

そこで検討したいのが、業務を行っていない深夜の時間帯に更新を済ませてしまう方法である。これに役立つのが、インテル® vPro™ テクノロジーに含まれるインテル® AMT (アクティブ・マネジメント・テクノロジー) という機能だ。

「インテル® AMTにはPCの電源がオフの状態でも、リモートからPCを操作できる機能が備わっています」と語るのは、インテル セールス & マーケティンググループの佐近清志氏である。

この機能を使えば、夜間にPCの電源を一斉にオンにし、OSの更新作業が行えるので、業務に支障を来す心配はない。

また、更新時にエラーが発生してしまったときも、インテル® AMTはOSの状態に依存しないため、リモートで状況の確認や対策ができる。情報システム担当者の負担は大幅に軽減されるはずだ。

「インテル® AMTのリモートKVM機能を使えば、離れた場所のPCで発生したOSやBIOSトラブルにも、訪問することなく対処することが可能です。この機能とリモート電源管理機能を応用すれば、OSの更新作業も合理化できるはずですよ」と佐近氏は語る。

インテル® Optane™ メモリーで高速化を図る

またWindows 10の定期更新では、PCのストレージ容量を十分確保しておくことも重要だ。空き容量が

不足していると更新が中断され、そのPCだけがアップデートされないままの状態になってしまうためだ。

これに対処するには、なるべく大きなストレージを搭載したPCに入れ替えるのが望ましい。ストレージに高速なSSDを搭載するという選択肢もあるが、大容量モデルだとコストが一気に跳ね上がってしまう。一方、ハードディスク搭載PCはコストが抑えられる分、転送速度が遅く、快適性に欠ける。

そこで検討して欲しいのが、両者のいいところ取りを実現した、「インテル® Optane™ メモリー」搭載PCの導入である。

「インテル® Optane™ メモリーはハードディスクと併用することで、ハードディスクのデータを一時保存する領域(キャッシュ領域)となってデータの書き込みや読み込みを高速化します。これによって、相対的に動作が遅いハードディスク搭載PCでも、高速処理が可能でSSD搭載PCに匹敵する操作感を得られるようになります」と語るのは、インテル NVMソリューション・グループ・セールスの佐藤義和氏である。

つまり、インテル® Optane™ メモリーとハードディスクを組み合わせることで、ハードディスクならではの大容量と、SSDに匹敵する快適性を実現しながら、コストを抑えつつPCのパフォーマンスを上げることができるのである。

そのため、インテル® Optane™ メモリー搭載PCには「働き方改革」を促す効果があるが、詳しくは後述しよう。

HP Image AssistantならすべてのPCをまとめて更新

一方、OS更新に対応したファームウェア、ドライバーのアップデートに役立つのが、「HP Support Assistant」と「HP Image Assistant」だ。

「前者は、個別のPCごとに最新のファームウェア、ドライバーなどが利用可能になった時点でユーザーに知らせてくれる機能が付いていますので、更新作業前にあらかじめアップデートをしておけば、ファームウェアやドライバーの互換性に起因した更新作業の失敗はなくなります」(福井氏)

一方、HP Image Assistantは、PCの管理者向けに提供されるもので、管理者がOSの更新に合わせて最適なドライバーやBIOS(OSの起動やPCと接続機器間の入出力を制御するプログラム)などのアップデートデータを社内に配布すると、それがすべてのPCに適用されるツールである。「OS更新のたびに1台1台のPCの設定を変更していくのは大変ですが、HP Image Assistantを使えば一度に処理できます。どちらもHPならではのツールで、無償なのでぜひ活用していただきたいですね」と福井氏は語る。

これらの準備も考えると、Windows 10への移行には相当な準備がかかることがわかりいただけたのではないかな。

タイムリミットは迫っている。なるべく早めの準備をお勧めしたい。

インテル株式会社
セールス&マーケティング
グループ
CCGセールス
テクニカルセールス
スペシャリスト
佐近 清志氏

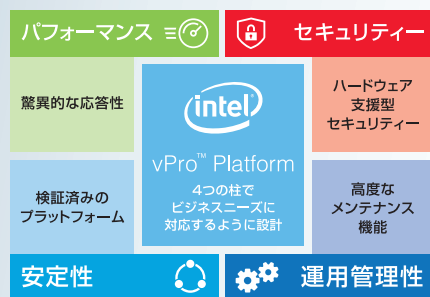


インテル株式会社
NVMソリューション・
グループ・セールス
事業開発マネージャー
佐藤 義和氏



ビジネスを止めない! インテル® vPro™ テクノロジー

インテル® vPro™ テクノロジーとは、ハードウェアであるインテルのプロセッサに、ソフトウェア、ネットワークコントローラなどを組み合わせたプラットフォームのこと。これによって、ノートPCの処理速度の向上、不正ログインの阻止や不正通信の遮断によるセキュリティ強化などを実現。遠隔地にあるPCの電源のオン・オフや、OSなどに障害が発生してもリモートからの運用管理ができるようになり、PC管理者が限られている企業でもスムーズに運用できる。ビジネスを止めることなく、PCの高速処理によって高い生産性を実現できるのが大きな特徴だ。



最新インテル® Core™ vPro™ プラットフォームの詳細は [vPro プラットフォーム](#) で検索

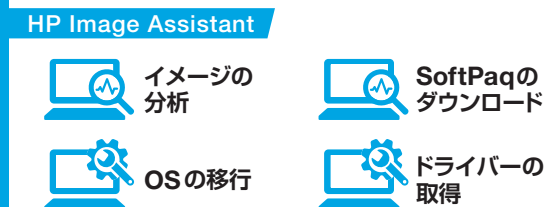
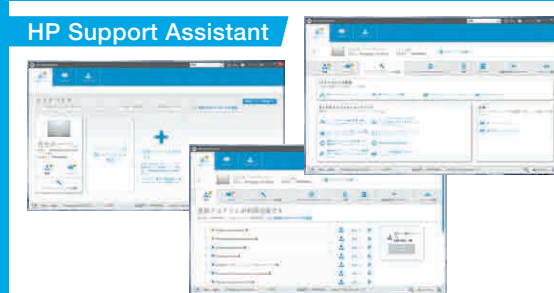


デスクトップPCからリモートでノートPCを操作し、簡単に設定変更などができます

Windows 10のアップデートを効率化するHPの無償ツール

HP Support Assistantは、Windows 10のアップデートが行われるたびに、通常はユーザーが自分で更新しなければならないPCやプリンターのファームウェアとドライバーを自動更新してくれる。HPのPCに標準装備されており、タスクバーに表示された「?」アイコンをクリックするだけで、すぐに使用できる。もう一つのHP Image Assistantは、システム部門やPC管理者が主導するWindows

10アップデートを効率化するツールだ。HPの推奨構成イメージをもとに、現状のBIOSのバージョンや設定、ドライバーやインストールされているソフトウェアのバージョンの差異を分析し、差分のドライバー等をダウンロードすることができる。PC管理者が限られている企業でも、社内すべてのPCを効率よくアップデートできるのがメリットだ。



セキュリティを高めて「働き方改革」を促す

Windows 10では、セキュリティ機能が大幅に進化しているが、デフォルトのソフトだけでは安心できない。特に「働き方改革」が進んでいる中、PCのセキュリティをいかに高めるかということは大きな課題だ。HPは独自のソリューションとインテルのテクノロジーを融合して、その答えを導き出した。

株式会社 日本HP
パーソナルシステムズ
事業本部
クライアントビジネス本部
モバイルビジネス部
プロダクトマネージャー
岡崎 和行氏

PCを持ち出すことによる 情報漏えいをどう解消する？

いよいよ2019年4月に「働き方改革関連法」が施行され、企業は「長時間労働の是正」とともに、「雇用形態にかかわらない公正な待遇の確保」「多様で柔軟な働き方の実現」を求められるようになった。今後、在宅勤務やサテライトオフィスで働くといったテレワークが、ますます一般化することになるだろう。

しかし、そうしたワークスタイルを定着させるうえで大きな“壁”となるのが、セキュリティの問題である。オフィスの外で仕事をするとなると、PCを持ち出すことになる。万が一盗まれたり、紛失したりすれば、ストレージに記録されている重要なデータや資料が漏えいするリスクがあるのだ。喫茶店などでトイレに行っている最中にUSBメモリーを挿し込まれてデータを盗まれたり、画面の写真を盗み撮られたりすることも考えられる。

だが、そうしたリスクを恐れてPCの持ち出しを禁止にすると、テレワークは進まない。セキュリティと「働き方改革」をどう両立させるかというのは、企業にとって大きなジレンマである。

中堅・中小企業ほど 実は狙われやすい！

実際には、「うち小さな会社で、盗まれて困るような個人情報も機密情報もそれほどないです」と、十分なセキュリティを施さずにPCの持ち出しを認める中堅・中小企業も少なくないようだ。

しかし、「最近のサイバー犯罪では、大企業よりも、むしろ中堅・中小企業のほうが狙われやすい傾向が表

れています。攻撃者たちは中堅・中小企業を“入り口”として、親会社や関連会社、取引先などのシステムに侵入するのです。自社に重要なデータがないからといってセキュリティ対策を怠るのは禁物です」と福井氏は警鐘を鳴らす。

セキュリティ対策の甘さによって、取引先に迷惑をかければ、取引停止や損害賠償などに発展する可能性もあるからだ。

大企業よりも人材獲得が困難な中堅・中小企業は、なおさら「働きやすい環境」をアピールして採用や人材の定着を促す必要がある。かといって、無防備なPCの持ち出しを認めるといったように、セキュリティ対策をないがしろにするわけにはいかない。

セキュリティ対策と「働き方改革」の両立は、はたして可能なのだろうか？

タブを閉じるだけで 感染を“なかったこと”に

実は、Windows 10への移行は、「働き方改革」におけるセキュリティ強化への有効な手段でもある。

Windows 10はサイバー攻撃のトレンドに対応しながら年2回、機能更新プログラムという大型のアップデートを行う。これによって、脅威への耐性がどんどん高まるのだ。

しかもWindows 10には、Windowsに標準搭載されていたセキュリティソリューション「Windows Defender」が大幅に強化されている。

これらの点を考えると、Windows 7からWindows 10に移行するだけでも、セキュリティ対策はかなり強化されると言っていーいだろう。

ただし、「サイバー攻撃の技術は年々巧妙化・高度化

しており、いかなる手段を講じて、マルウェアなどの侵入を100%防御することは不可能です。なので、侵入されることを前提に、PCが不穏な動きを見せたら速やかに検知して、復旧する仕組みを併用することが重要と言えます」と福井氏は語る。

その仕組みとしてHPが無償提供しているのが、「HP Sure Click」と呼ばれるセキュリティソリューションだ。

これは、ブラウザやメールのリンクでWebサイトを閲覧中に、うっかりマルウェア感染の引き金となる項

目をクリックしても、ブラウザのタブを閉じるだけで感染を“なかったこと”にしてくれる機能となる。

「社員が勤務中に、つい業務とは関係ないWebサイトを閲覧してしまったり、なりすましメールの添付ファイルを開封してしまったりすることもあると思います。

その際、知らず知らずのうちに不正なWebサイトにアクセスし、ウィルスに感染してしまうことも。そんな場合でも手軽に、かつ確実に感染を止めることができます」と語るのは、日本HP パーソナルシステムズ事業本部の岡崎和行氏である。

PCのセキュリティを高める、HPの3つの「Sure」

HP Sure Viewは、内蔵プライバシースクリーンによって、隣の席からの覗き見などをブロックしてくれる機能。キー操作一つで画面にスクリーンが掛けられ、視野角を制限する。HP Sure Clickは、マルウェアやウィルスに感染したWebサイトからPCを守ってくれるセキュリティ機能だ。インテルのプロセッサに搭載された仮想化支援技術を利用し、ハードウェア的に完全に隔離された仮想マシン内でWeb

ブラウジングを実行する。そのため、マルウェアやウィルスなどが組み込まれたサイトを閲覧したりファイルを開いたりしても、Webサイトやファイルを閉じるだけでマルウェア、ウィルスが自動除去される。最近増えているBIOSへの攻撃を検知して、自動復旧してくれるのがHP Sure Start。業界初かつ唯一HPが提供するランタイム侵入検知機能によって、1分以内にBIOSへの攻撃を検知し、修復する。

HP Sure View



視野角
約180度

視野角
約70度

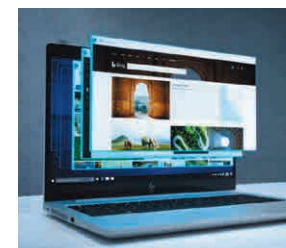
ミーティング中に複数人で画面を見るときはオフ、カフェやシェアードオフィスなどで使用するときはオンにするなど、簡単な操作で使い分けが可能だ。

HP Sure Start



HPが独自に開発した自己回復型BIOS。HP Endpoint Security ControllerがBIOSに何らかの改ざんがないか調べ、もし攻撃によって不正な状態であることが検知された場合でも、自動的に正常な状態に復旧してくれる。

HP Sure Click



※Internet Explorerに対応

不正Webサイト閲覧によるマルウェアやウィルス感染、さらに、PDF、Word、Excel、PowerPointをOutlookで受信し、メールに添付されたファイルのウィルス感染からPCを保護。マルウェア感染が起こった場合に備え、仮想化技術を利用してブラウザをハードウェア的に完全に隔離された仮想マシン内で実行する。不正な振る舞いをするWebページやファイルを閉じることで、マルウェアやウィルスは自動的に削除される仕組みだ。

HP Sure Clickは「インテル® パーチャライゼーション・テクノロジー（インテル® VT）」を活用。

「インテル® VT」は、仮想化をハードウェアで支援する機能。仮想化とは、1台のパソコンにて複数の仮想マシンを同時に動作させる技術だ。通常は1台のパソコンにて動作するOSは1つだが、仮想マシンを利用すれば、例えばWindows 10と過去のWindowsの同時動作が可能となっている。





HP Sure Clickは、インテルプロセッサに内蔵される機能、インテル® VT（バーチャライゼーション・テクノロジー）を使ったセキュリティソリューションである。その特徴は、ウィルスを除去してくれる高度な感染防御を「タブを閉じる」という非常にシンプルな操作で実行できることだ。

「セキュリティを強化すると、どうしても使い勝手が悪くなりがちですが、利便性を損なわずに高度なセキュリティを実現するという理想を追求しました」と岡崎氏は説明する。

仕事を止めることなく 安全性も保つ

この考え方は、HPのほかのセキュリティソリューションにも通底している。

たとえば、「HP Sure Start」というソリューションは、OSやアンチウィルスソフトの機能では防御できないBIOSへのサイバー攻撃を検知し、プロセスの改ざんや破壊活動から自己回復する仕組みとなっている。

「起動時に復旧作業を行う場合は、一瞬だけその情報が画面表示されますが、すぐに通常画面に変わり、作業ができるようになります。ユーザーは一切復旧作業に関する操作をする必要がなく、感染にすら気付かない状態で普段どおりにPCを使えるのです」と語るのは、日本HP パーソナルシステムズ事業本部の山口祐佳氏である。

仕事を止めることなく、安全も保つ。そうした事業継続性を徹底追求しているのもHPのセキュリティソリューションの特徴である。

キー操作一つで 画面の覗き見をブロック

ところで、先ほども述べたようにモバイルPCを持ち歩く場合、盗難や紛失、他人による覗き見などのリスクが伴う。

覗き見対策としてHPのプレミアムモバイルPCに搭載されているのが「HP Sure View」という機能だ。これは、キー操作一つで画面にプライバシースクリーンを掛けられるもので、斜めから見ると画面が真っ白になる。市販のプライバシーフィルターを貼るユーザーもいるが、それよりも簡単で有効だ。

また、インテル® vPro™ テクノロジー搭載モデルであれば、PCのログイン時に顔認証や指紋認証だけでなく、PCが社内ネットワークに繋がっているかどうかといった状態確認も含め、6要素による認証が可能だ。

「たとえば、業務時間外はPCを外に持ち出すことを禁止にしていたとしても、つつい自宅に持ち帰ってしまう社員もいるかと思います。ですが、PCを持ち帰ったとしても、社内ネットワークに繋がっていない状態では認証ができないので、業務外でのPC使用を防ぐことができるのです。このほかにも、さまざまな条件を組み合わせでセキュリティレベルを上げることが

できます。これは、インテル® vPro™ テクノロジーは、インテル製のCPU、チップセットおよびネットワークインターフェースとそれを統合するファームウェアを標準搭載しているため、このような複雑な認証を実現しています」と佐近氏は説明する。

ちなみにインテルは、メーカーから企業に出荷されたPCのCPUやチップセットなどの電子部品が偽造されていないかどうかを確認できる「インテル® トランスペアレント・サプライ・チェーン」というサービスも提供している。これも高度なセキュリティによってユーザーの安全性を徹底追求するインテルならではのサービスと言えるだろう。

インテル® Optane™ メモリーで 生産性向上を実現

ところで、「働き方改革」がどんなに重要だと言っても、すべての社員にセキュリティ対策も万全なハイスペックなモバイルPCを配布するというのはあまり

現実的ではない。

在宅勤務者やサテライトワーカーにはモバイルPC、オフィス勤務者にはデスクトップPCといったように、使い分けや予算配分を考えるほうが合理的だ。

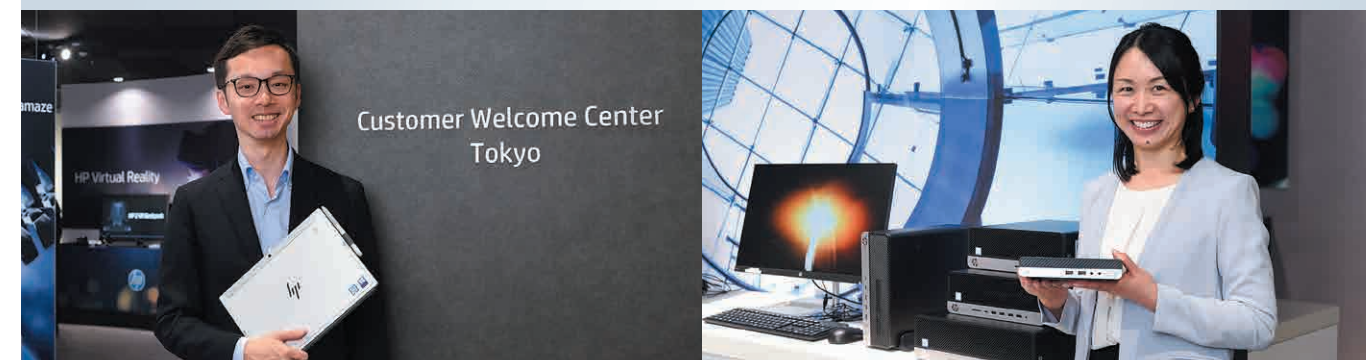
その場合、デスクトップPCはインテル® Optane™ メモリー搭載モデルにリプレイスするのも方法だろう。

「ハードディスクよりも高速・大容量のSSD搭載モデルに入れ替える選択肢もありますが、インテル® Optane™ メモリー搭載モデルのほうが割安でし、ハードディスクのみを搭載したPCと比べて起動やストレージへのアクセス、アプリケーションの起動、作業の実行スピードなどが格段に速くなります。『働き方改革』の本来の目的である社員の方々の生産性向上を促すはずで」と佐藤氏は語る。

Windows 10への移行を機に、PCそのものをHPのソリューションとインテルの技術が融合した最新モデルに入れ替えてみてはどうだろう。

「働き方」に合わせて、多彩なラインアップを用意

HPはモバイルから2 in 1タブレット、ノートブック、デスクトップまで、企業や社員の「働き方」に応じて、さまざまな最新インテル®プロセッサ搭載PCを用意している。



HPの2 in 1タブレットは、
内蔵プライバシースクリーンを搭載し、
コラボレーションキーボードを
装着しても、薄型、軽量です

超小型PCから、拡張性に優れた
タワー、液晶一体型まで
用途に合わせて
幅広いラインアップを揃えています

最新インテル® Core™ プロセッサ搭載PCの詳細は [HP Make the Shift](#) で検索 🔍

PCの応答性を高める、インテル® Optane™ メモリー

ハードディスク搭載型のPCは、価格は比較的安いものの、SSD搭載型のPCに比べると応答性（レスポンス）がやや低いのが難点だ。起動までに時間がかかったり、複数の作業を同時に実行するとPCの動きが遅くなったりする。これを改善してくれるのがインテル® Optane™ メモリーだ。ハードディスク搭載型PCに組

み込むだけで、SSD搭載型PCとそん色のない応答性が実現する。Windows 10への移行とともにPCの買い替えを検討している企業も多いはずだが、あらかじめ、インテル® Optane™ メモリーが組み込まれたハードディスク搭載型PCを選べば、導入コストを抑えながら生産性を高めることができるはず。

インテル® Optane™ メモリーは
デスクトップPCだけではなく、
ノートPCのオプションとしても
選択が可能になりました

インテル® Optane™ メモリー
搭載PCの詳細は

[HP Optane メモリー](#) で検索 🔍



Windows 10 移行に最適な、 インテル® Optane™ メモリー インテル® vPro™ テクノロジー搭載、 HPのビジネスPC

HP EliteOne 1000 G2 All-in-One



あらゆる最先端技術を凝縮した
プレミアムオールインワンPC



液晶一体型



27 インチ
34 インチ



高セキュリティ



日本サポート



HP Elite Premium
サポート

HP EliteDesk 800 G4 TW



500W 電源を採用しパフォーマンスと
省電力性を両立するデスクトップPC



タワー



高拡張性



高セキュリティ



東京生産



日本サポート



HP Elite Premium
サポート

HP EliteDesk 800 G4 SF



セキュリティ・管理性への高いニーズに
応える省スペースデスクトップPC



省スペース



省電力



高セキュリティ



東京生産



日本サポート



HP Elite Premium
サポート

HP ProDesk 400 G4 DM



容量約 1 リットル、多彩な設置方法を
実現する超小型デスクトップPC



超小型



省電力



東京生産



日本サポート

HP ProBook 650 G4 Notebook PC



セキュリティ・管理性に優れ
幅広い拡張性を持つハイエンドノートPC



15.6
15.6 インチ



非光沢



約 2.18kg



高セキュリティ



東京生産

※一部 海外生産



日本サポート